まちかどケンチクばなし vol.4

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部
兵庫地域会　地域まちづくり委員会

ブラジル・サンパウロの歩行者天国

川上 真誠　株式会社クラウドアーキテクツ 代表／関西学院大学建築学部 非常勤講師／（公社）日本建築家協会近畿支部兵庫地域会 副地域会長

ブラジル・サンパウロ市には、建築家リナ・ボ・バルディが設計したサンパウロ美術館があります。この美術館は1968年に竣工され、巨大な柱と梁によって建物全体を地上から持ち上げ、その下の1階部分を「ベルヴェデーレ（見晴らし台）」と名づけた開放的なオープンスペースとして設計されています。

リナ・ボ・バルディは、美術館を「知の霊廟」のような静的で権威的な場ではなく、人々が自由に出入りし、互いに学び合い、創造的な交流を育む「開かれた学びの場」として捉えていました。サンパウロ市を一望できる1階部分を、屋外展示や市民の活動のために自由に使える空間として設計したのも、その理念の具現化に他なりません。

私が今年1月にサンパウロを訪れた際、ちょうど日曜日にこの美術館の前を通るパウリスタ大通りが歩行者天国として開放され、多くの人々が通りに繰り出して楽しんでいる様子を目の当たりにしました。道路には屋台やDJブースが並び、音楽やダンス、食事、会話があふれ、そこにはまさに「都市の中に現れた巨大な広場」といった趣がありました。ラテンアメリカの文化が持つ躍動感や、人々の生活と芸術が自然に融合する様子に強い感動を覚えました。

近年、世界中の都市で、車中心から人間中心の空間設計へと転換する「ウォーカブル・シティー」への動きが進んでいます。人が安心して歩き、滞在し、交流できる都市空間が求められています。三宮でも駅前の「サンキタ通り」が歩行者中心の空間として再整備され、旧居留地エリアではナイトマーケットなどの実験的なイベントが開かれるなど、都市空間を市民に開く取り組みが進んでいます。

サンパウロのパウリスタ大通りの歩行者天国も、2016年に始まった「オープンストリートプログラム」の一環としての取り組みであり、都市と市民の新しい関係性を築こうとする意志が感じられます。

インターネットやSNSによる情報空間での交流が盛んな現代において、改めて人と人が実空間で出会い、時間と空間を共有することの価値が重要になってきているのではないかと感じます。リナ・ボ・バルディが美術館という建築を通して提案した「開かれた公共空間」の思想は、50年の歳月を経た今、サンパウロや神戸のような都市空間の中に確かに息づいているように思われます。

参考文献：リナ・ボ・バルディ－ブラジルにもっとも愛された建築家TOTO出版

パウリスタ大通り歩行者天国の様子

パウリスタ大通りからサンパウロ美術館を見る

サンパウロ美術館1階のオープンスペース

パウリスタ大通り歩行者天国の様子

特別展「藤田嗣治　7つの情熱」

会　　場：神戸市立小磯記念美術館
［神戸市東灘区向洋町中5丁目7］
会　　期：2025年6月29日(日)–9月15日(月・祝)
開館時間：10:00～17:00(入館の受付は16:30まで)
休館日　：毎週月曜、7月22日(火)、8月12日(火)
〔ただし7月21日(月・祝)、8月11日(月・祝)
9月15日(月・祝)は開館〕
公式サイト：https://www.city.kobe.lg.jp/koisomuseum/
一般のお問合せ：TEL 078-857-5880 FAX 078-857-3737

藤田嗣治《ミルクを飲む猫がいる食卓につく少女》
1950年油彩、カンヴァス個人蔵　© Fondation Foujita / ADAGP Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 G3848

特別展「正倉院THE SHOW －感じる。いま、ここにある奇跡－」

会　　場：大阪歴史博物館(大阪市中央区)
会　　期：2025年6月14日(土)～8月24日(日)
開館時間：午前9時30分～午後5時
(入館は閉館30分前まで)
休館日　：毎週火曜日
(ただし、8月12日(火)は開館)

3Dデジタルデータ 螺鈿紫檀五絃琵琶(らでんしたんのごげんびわ)
撮影および計測：宮内庁正倉院事務所・TOPPAN株式会社)

読者プレゼント

観覧ご希望の方は、住所・氏名・年齢・本紙への一言を添え、本紙編集部までハガキでお申し込みください。先着順で3名の方にペア招待券をお送りします！